

## ～子どもに経験してほしいこと～

自分で行動を選択して自己実現し、社会を支えていく大切な子どもだからこそ、子ども期に経験しておいてほしいことがあります。

自分の力で行動し失敗しても、助けをかりながら立ち直る経験もその 1 つです。この経験は将来、自分を守る力となり、他者と共に生きる力となります。自分で考えて自ら行動する、失敗や試行錯誤を繰り返す、誰かの助けを借りられる、立て直したり立ち直ったりする、再び挑戦する、というプロセスがこの経験です。そしてそこには、見守り心を傾けてくれ、いつでも味方でいてくれる大人の存在が必要です。危険を回避するためには、危険を察知したり回避したりする技術だけでなく、自分が大切な存在であるという自分に対する肯定的な感覚も必要なのです。自分が大切な存在であるというこの感覚が子どもたちに育まれるよう、たちばな保育園は丁寧なかかわりを追及します。そして、子どもの主体的な遊びを見守り、子どもが失敗する機会を奪わないようにしています。困った時には助けを求められるように、失敗の悔しさ、もどかしさを共有し、子どもが自分を立て直していられるよう時に抱きしめ、手を貸します。

自分に対する肯定的な感覚が得られている子どもは、自ら外界に働きかけ、主体的に遊びます。子どもが夢中で遊ぶとき、真剣に友達と向き合うとき、けがをしてしまうことがあります。「子どもにけがはつきもの」ということではなく、大きなけがや事故から自分を守ることができるよう、小さなけがをたくさん経験することに意味があると考えています。失敗経験からも肯定的な実感を抱けるよう、小さなけがや失敗を大切に育ててまいります。

文責 植草学園大学 小川晶